

私たち人権啓発推進員が取材しました!!

住之江区・大阪市で活躍するアスリートに東京2020パラリンピックに向けた意気込みを語っていただきました!

パラリンピック強化指定選手

名前	高松 佑圭
競技	陸上競技
専門種目	100m 400m
競技歴	12年
クラス	T38
主な成績	世界パラ陸上競技選手権大会 ロンドン2017 400m銀メダル(日本新記録)
その他	住之江区在住



敷津浦小学校の6年間はスイミング、住之江中学校の2年生のときに陸上競技を始めましたが、高校3年間はバスケットボールをしていました。現在、高校生、大学生と一緒にほぼ毎日トレーニングをしています。東京2020パラリンピックでは、100mは決勝進出、400mはメダル争いができるよう頑張りたいです。東京2020パラリンピックからユニバーサルリレーが新しい種目になり、日本チームとして貢献できるように、リレーでもメダル獲得を狙っていきます。皆様の温かい応援よろしくお願いします。

パラリンピック代表内定選手

名前	中村 拓海
競技	ボッチャ
競技歴	7年
クラス	BC1
主な成績	BISFED2017 BANGKOK BOCCIA WORLD OPEN チーム戦 金メダル BISFED2018 DUBAI BOCCIA WORLD OPEN 個人戦 銀メダル
その他	長居ボッチャクラブ代表



長居障がい者スポーツセンターで、毎週火曜日午後3時半より3時間程度、長居ボッチャクラブの仲間約30名と練習や試合を楽しみながら活動・交流しています。前回のリオパラリンピックでは、選考会で敗れ出場する事が出来ませんでした。しかし、それでもリオパラリンピック以降に出場した大会では個人戦・団体戦ともに結果を残して、現在世界ランキングは個人9位・団体2位にまで来る事が出来ました。東京2020パラリンピックの目標は、個人戦・団体戦ともメダル獲得です。

住之江区の小中学校で授業を行っている荒川コーチに中西選手(東京2020パラリンピック出場内定)の指導についてお話を伺いました!

住之江区役所では、北京オリンピック銀メダリストの朝原宣治さんが主宰する陸上競技クラブ「NOBY T&F CLUB (主催:大阪ガス(株))」による運動プログラムを、南港の一部の小中学校の授業に取り入れ、スポーツによる地域の活性化をめざしています。

日頃、子どもたちを指導して下さっているコーチであり、すでに東京2020パラリンピックの出場が内定している中西麻耶選手(女子走り幅跳び)のコーチでもある荒川大輔さんにお話を伺いました。

Q. パラスポーツのトップアスリートである中西選手を指導する際に、NOBY T&F CLUB等での普段の指導と違って意識していることはありますか?

A. 意外と思われるかもしれませんが、特に意識はしていません。選手本人にとっては義足も自分の足ですので、総合的にみるとトレーニングに関しての指導法は何も変わらないんです。ただ、選手の筋力に合わせて義足の硬さの変更などのアドバイスはすることがあります。



荒川コーチ

主な成績 日本選手権で3回優勝。世界陸上に2回出場。2017年ワールドマスターズゲームズ陸上で世界一。

Q. 荒川コーチが考えるパラリンピックの魅力について教えてください。

A. オリンピックであればメダル獲得が目標となるんですが、パラスポーツ選手は競技をしようとする事自体が挑戦なんです。障がいの度合いに合わせて細かくクラス分けされているわけではないので、どうしてもメダルには手が届かないという選手もいます。その中で、ベストを尽くすことであったり、自己新記録を出すことであったり、選手によって目標とするところが異なります。それを踏まえて「観戦する」といった楽しみ方ができるのが、パラリンピックの魅力です。

Q. 東京2020パラリンピックは「スポーツには世界と未来を変える力がある」を大会ビジョンに掲げていますが、荒川コーチが思う「スポーツの力」とは?

A. 結果はもちろん大切ですが、大舞台で頑張っている選手の姿を見ることができる。そこにドラマがあり、見ている人に大きな感動を与える力があると思います。



中西選手の指導をする荒川コーチ

大阪市(長居・舞洲)障がい者スポーツセンターを紹介します



障がいのある誰もが、いつ来館しても指導員や仲間がいて、安心していろいろなスポーツを楽しむことができます。また、施設内には、アリーナ(体育館)・温水プール・卓球室・ボウリング室・トレーニング室などが設置されています。

●長居障がい者スポーツセンター(東住吉区長居公園1-32)

1974年、障がいのある人がスポーツを通して、体力の維持・増進・身体機能の回復や向上を図ること、また精神的にも自信と勇気を養い、社会参加の機会を増やし、豊かな日常生活を送っていただくことができるために日本で初めて設立されました。



☎6697-8681

●舞洲障がい者スポーツセンター(アミティ舞洲)(此花区北港白津2-1-46)

1997年、海に浮かぶ宿泊施設を完備したスポーツ施設で、リハビリから競技スポーツまで行える障がい者スポーツセンターとして設立されました。全国大会規模の障がい者のスポーツ大会が数多く開催され、2016年には、「パラリンピック競技ナショナルトレーニングセンター-競技別強化拠点施設(ボッチャ競技)」に指定されました。



☎6465-8200

●大阪障がい者アーチェリークラブの山林部長に活動紹介をしていただきました。

クラブ発足43年、現在部員28名。長居障がい者スポーツセンターで毎週火・木曜に練習をしています。室内の講習を8回受講すると練習場へ参加できます。2m、3mから始めて5m、10mと練習します。大会は、18m、30m、50m、70mがあります。弓は、滑車付の「コンパウンド」と音が鳴ってから飛び出す「リカーブ」の2種類があります。視覚障がい者の方も付き添いの方がいて、自分での距離を測り、矢を放たれています。入会を希望される方は、長居障がい者スポーツセンターまでご連絡ください。



豆知識1 障がい者スポーツの最高峰の国際大会であるパラリンピックの起源

第2次世界大戦でけがをした兵士のリハビリとしてスポーツ大会を開いたのがきっかけとなり、発展しました。「パラリンピック」という愛称が初めて使われたのは、1964年東京大会でした。出場者がせきつい損傷の車いす選手が中心だったことから、「パラプレジア(下半身まひ)」と「オリンピック」を組み合わせた造語として、この言葉が生まれました。その後、国際オリンピック委員会は、1985年「パラリンピック」と名乗ることを正式に承認しました。

なお、聴覚障がい者の競技種目はデフリンピックのみとなります。

豆知識2 デフリンピック

デフリンピックとは、耳の聞こえない選手のための国際的なスポーツ大会です。オリンピックと同じように4年に1度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催されます。競技ルールはオリンピックと同じですが、聞こえない選手のための視覚的保障がなされた競技環境があることがデフリンピックの特徴です。語源は、デフ(聴覚障がい者)とオリンピックを掛け合わせて生まれた造語です。参加者が国際手話によるコミュニケーションで友好を深められるところに大きな特徴があります。